

## 第9章 社会的支援の調整機能

「障害者雇用支援総合データベース」は、職業生活上のニーズと既存の支援方法や社会資源に関する情報を結びつけることにより問題の解決に役立ちうるだけでなく、現時点では該当する支援方法や社会資源が見出されない場合についても、社会的支援の課題を明確にするという社会への提示・調整・啓発機能が期待される。

「障害者雇用支援総合データベース」は、我々が研究開発の目的とした「障害者、事業主、その他各分野における職業リハビリテーション関係者が、障害者の職業上の課題を個人と環境の両面から総合的に把握し、共通認識のもとで効果的に課題解決することを支援する簡便なツール」そのものである。この最終章では、様々な障害のある人の職業自立を支える社会的支援の中に、このツールがどのように位置づけられうるかについて、今後の展望や課題について考察する。

障害のある人の職業自立を支える社会的支援に関しては多様な専門職や制度が関わっている。また、このあり方は、決して固定的でなく前進し続けている。この特別研究の5年間において、行政分野に限っても、労働省と厚生省の統合、福祉基礎構造改革、ジョブコーチ事業、新障害者基本法による共生社会や個別支援の理念の提示、等々、といった大きな変化があった。また、20年ぶりの国際障害分類の改定によりICFが登場したのも、この研究期間内であった。現在では生活の一部に溶け込んでいるインターネットについても、5年前には多くの人にとって追加料金を払って利用する特別のものであった。このような激動する環境の中で、有効に機能し、さらに将来的にも使えるようなツールを開発することは、極めて困難なことに思える。

そのため、我々は「現実の様々な職業生活上の課題に対して、地域の関係機関が効果的に支援を提供する。」という、単純極まりなく、それ故、誰もが同意できる普遍性をもつ命題、すなわち原則とでもいべきものに従って、ツールの研究開発を進める必要があった。この研究開発は「職業的視点からみた障害」について根本から見直し、さらに、障害のある人の職業生活を支える環境としての既存の社会資源の棚卸しを行うという、一見回りくどいものとなった。

しかし、そのような原則に忠実なものであったからこそ、我々の開発した「障害者雇用支援総合データベース」は、社会的支援の調整機能の要となりえるものだと考えている。

また、このようなツールの存在によってはじめて明らかになる今後の研究課題というものもある。こうした見方からすれば、我々の研究開発は、より大きな課題に向けて、その

第一歩を踏み出したものにすぎないともいえる。

この最終章では、「障害者雇用支援総合データベース」は、職業生活上のニーズと既存の支援方法や社会資源を結びつけることにより問題の解決に役立つだけでなく、現時点では該当する効果的な支援方法や社会資源が見出せない場合においても社会的支援の課題を明確にするという社会への提示・調整・啓発機能が期待されるということについて、簡単にまとめることとする。

- 第1節 データベースとしての活用： 今後、「障害者雇用支援総合データベース」は試用版として、一般に提供されることによって、その実際的効果を検証していく必要がある。
- 第2節 雇用と福祉の連携のために： 「障害者雇用支援総合データベース」は障害のある人の就労可能性の判断において不可欠の情報を提供し、また、障害のある人の職業生活を支える支援ニーズを明確にすることにより、新しい雇用と福祉の連携のあり方を支えるツールとしても期待される。
- 第3節 社会的支援ニーズの明確化： 現時点では該当する効果的な支援方法や社会資源が見出せない場合においても、社会的支援の課題として、地域の社会資源整備の必要性や、研究開発ニーズを明確にすることによる調整・啓発機能が期待される。

## 第1節 データベースとしての活用

今後、「障害者雇用支援総合データベース」は試用版として、一般に提供されることによって、その実際的効果を検証していく必要がある。この報告書作成時段階では、研究開発された最終版について、いくつかの実際的な試用例がある。我々の開発のツールの効果は一部検証されつつあると考えているが、より大きな可能性については今後の応用例の積み重ねを待ちたい。

### 1 地域障害者職業センターにおける開発最終版の実地試験

この実地試験は、研究開発にかかる最終年度の平成16年度に地域障害者職業センター3ヶ所において、5名の障害者職業カウンセラーの協力によって、開発最終版のUWDB<sub>β1</sub>について行ったものである。当該カウンセラーが、自分のパソコンから2週間ほど自由に活用し、その結果をアンケートにより回答した。アンケートの項目と集計結果を表に示す。

わずか5名の回答による判断には限界があるが、開発目的としたツールの機能については、いくつかの発展的な課題を残したもの、総じて一定レベルに達したものと判断した。

#### (1) 一定レベルに達した機能

キーワードで各種情報を検索できる辞書機能については、我々が期待したレベルに達し得た。また、「障害・疾患情報」「職業情報」についても現状で問題はないものと判断できた。さらに、「職業的課題チェックリスト」「環境整備チェックリスト」「個別就労支援総合計画書」の項目の妥当性や有用性についても、一定のレベルには達したものと判断できた。また、「障害者雇用支援総合データベース」の全般的有効性については、「障害者側と事業主側の一体的な支援の場面」の項目で60%だった以外は、10項目で80%以上と、一定レベルの有効性を確認できた。

## (2) 発展的な課題

一方、より改善を求められた機能があったが、それらは、まさに我々が意図している使い方に沿った方向への改善要望であり、発展的な課題であると判断できるものであった。

### ア 支援情報の検索のあり方

現状のチェックリスト作成機能は、「まず、問題を把握する」→「それから支援方法を検討する」という常識的と思われる順序での使用を前提としているが、試用者からは、課題を調べることと支援方法を調べることを分けない方が妥当であるとの回答が多かった。これは、辞書機能での支援情報検索（回答のコメント例「単独で使用するより、この人への支援をどうするかを考えた時に使うと思うので、障害・疾患情報検索と統合した方がよい。」）や、「個別就労支援総合計画書」の作成プロセスについて指摘されている点とも整合するものであった。

「職業的視点からみた障害」の認識としては課題と支援は相互に関連していることから、一体的に捉えることは妥当であり、試用者からそのことを指摘されることは、我々の意図に沿った発展的な課題と理解できるものであった。

### イ 福祉施設の自己申告による「就労支援」情報の妥当性

福祉施設の就労支援機能を検索した結果、妥当な結果とされたのは40%と半数を下回った。これは、地域障害者職業センターの判断では、これら福祉施設の自己申告で行っている「就労支援」の実態が、一般雇用を目指すための支援としては適切・十分とはいえないとの判断を反映しているものと考えられる。

確かにこれは、第5章で示した福祉施設の就労支援の実態そのものである。しかし、同時に我々はそのような福祉施設の支援内容を個別に見ていくれば、一部は本当の職業生活を支えるために利用可能なものがあり得ると考えている。福祉施設の個別の就労支援機能を、社会が有効活用する方策の検討は、これら施設自体の課題であるとともに、いかに社会的調整を行うかという、我々の今後の課題としたい。

## UWDB β 1試用後の地域障害者職業カウンセラーの感想(n=5;有効回答比)

### 1 辞書機能

Top画面の右半分の「細かく色々調べたいという方へ」部分の機能です。

#### (1)キーワード検索

調べたいキーワードを入力して、「疾患・障害」「職業」「支援」「社会資源」のボタンを押すと、データベース登録内容を直接検索できます。

この機能は使いやすかったですか？	100%
期待した検索結果が得られましたか？	100%
この機能はあなたの仕事にとって有用ですか？	100%
この機能をインターネットで一般に提供する意義はあると思いますか？	100%

#### (2)「障害・疾患情報検索」

多様な障害や疾患の内容と、それによる職業的課題と支援方法を調べることができます。

「障害種類・疾患名から調べる」と「職業的課題(活動制限)・機能障害から調べる」のどちらが使いやすいですか？「障害種類・疾患名から調べる」	100%
疾患や障害に関する一般的・医学的情報は必要ですか？	80%
職業上の課題をリストアップする機能は有用ですか？	100%
職業上の課題のリストアップ項目の数と内容は妥当ですか？	100%
職業上の課題の「原因を見る」機能は有用ですか？	60%
職業上の課題への「支援策を調べる」機能は有用ですか？	100%
支援策の検索結果は妥当でしたか？	75%

#### (3)「職業要件検索」

多様な職種の具体的な内容（「私のしごと情報館」のサイトにリンク）や、障害に関係のない一般的な要件、障害が影響しうる要件について調べることができます。

「日本の職業分類から調べる」と「米国標準職業分類から調べる」のどちらが使いやすいですか？「日本の職業分類から調べる」	100%
最終画面の職業情報は、米国の職業データベースによるものです。この情報は妥当ですか。	100%
以下の機能や情報は有用だと思いますか？	
職種名をクリックして、私のしごと情報館JobWorldのサイトの職業解説を閲覧できる機能	100%
「仕事の難しさの目安」「興味分野」「仕事に必要な知識」といった一般的な情報	100%
職務要件の要求レベルの情報	100%
職務要件の各項目をクリックしてより詳細な要求レベルを検討できる機能	75%

#### (4)「支援情報検索」

データベースに登録された支援機器、各種マニュアル等の資料、研究成果、海外の雇用支援情報を様々な角度から検索できます。

この機能は使いやすいですか？	60%
この機能は有用ですか？	80%
検索結果は妥当でしたか(期待した結果は得られましたか)？	80%
支援方法名をクリックすると詳細な内容が見られる機能は有用ですか？	100%
いくつかの支援情報には、支援機器、外部情報源等のリンクがありますが、この機能は有用ですか？	80%

#### (5)「社会資源情報検索」

様々な支援方法の実行を助けるサービスや制度を「社会資源」と位置付けて検索できるようにしています。現在は、地域で就労支援を行っている福祉施設だけが検索対象となっています。

この機能は使いやすいですか？	80%
この機能は有用ですか？	80%
検索結果は妥当でしたか(期待した結果は得られましたか)？	60%
あなたの地域の福祉施設の就労支援の登録内容は妥当だと思いますか？	40%

## 2 総合的検索、資料作成支援機能

### (1)ある仕事に就くための課題を知りたい。

右側の「疾患・障害情報」にある職業的な課題を調べる機能と似ていますが、より詳細に、職種や働き方を指定して個別的なチェックリストを作成することができます。

「障害・疾患の設定」→「職業的目標の設定」→「課題」の流れは適切ですか？	80%
途中で、障害・疾患や職業に関する情報を、確認のために表示していますが、このような確認は有用ですか？	60%
職業的課題の最終画面では、障害に関係しない一般的な職業的課題をまず示し、その後に障害の影響を示していますが、この順序は適切と思いますか？	100%
最終画面で「印刷」ボタンを押すと、「職業的課題チェックリスト」という印刷資料が作られますか？この機能は有用ですか？	80%
様々な障害種類や職種等の組合せで「職業的課題チェックリスト」の項目は妥当なものとなっていますか？	100%
この流れでは、課題だけを示し、支援方法までは示しませんが、これは適切と思いますか？	25%
この機能は使いやすいですか？	75%

### (2)新規雇用する障害者の課題や配慮について知りたい

これは、企業が障害者を雇用する際に当然整備することが期待される職場や地域の環境整備項目を、「職場環境整備チェックリスト」として示す機能です。

この機能は有用ですか？	80%
「障害・疾患の設定」→「職業的目標の設定」→「課題」の流れは適切ですか？	80%
途中で、障害・疾患や職業に関する情報を、確認のために表示していますが、このような確認は有用ですか？	80%
最終画面で「印刷」ボタンを押すと、「職場環境整備チェックリスト」が作成されますか？この機能は有用ですか？	100%
様々な障害種類や職種等の組合せで「職場環境整備チェックリスト」の項目は妥当なものとなっていますか？	100%

### (3)現在の職場での問題及び対処法を知りたい

この機能は、上記の2つのチェックリストによって、職業上の課題と、現在の職場環境整備状況に基づいて、可能な支援情報を参照しながら、個別的な支援計画を作成し、「個別就労支援計画書」として示す機能です。

入力用の「職業的課題チェックリスト」と「職場環境整備チェックリスト」を作成するために、「障害・疾患の設定」→「職業的目標の設定」を繰り返す必要がありますが、これに違和感はありませんか？

□特に違和感はない、□上記の2つのチェックリスト作成機能を、この流れに一本化した方がよい。	20%
様々な障害種類や職種等の組合せで、課題に対する支援方法候補の項目は妥当なものとなっていますか？	100%
最終画面で「印刷」ボタンを押すと、「個別就労支援 総合計画書」が作成されますか？この機能は有用ですか？	80%

## 3 全体的意義についての質問

### (1)障害者雇用支援への情報支援ニーズ

あなたの障害者雇用支援の仕事の中で、以下のような場面で情報へのニーズはどの程度ありますか？(中程度以上)

多様な障害種類に対応する場面	100%
福祉、教育、医療等とは異なる職業場面での専門性が要求される場面	100%
障害と職業場面での困難性の関連を検討する場面	100%
障害者側と事業主側の一体的な支援の場面	100%
障害のある人の職業能力や課題を関係者に説明する場面	80%
地域の関係者に、雇用支援上の協力を要請する場面	80%
本人の興味やニーズを活かした就労支援を行う場面	80%
就労が非常に困難な障害者の就労支援策を検討する場面	75%
障害のある人にあった仕事内容を検討(再設計等)する場面	60%
企業側に環境整備を交渉するための資料を準備する場面	60%
就職後の様々な職業場面での問題に対応する場面	80%

## (2) 障害者雇用支援総合データベースの有効性

あなたの就労支援ニーズに対して、障害者雇用支援総合データベースが有効と考える場面はありますか？（中程度以上）

多様な障害種類に対応する場面	100%
福祉、教育、医療等とは異なる職業場面での専門性が要求される場面	80%
障害と職業場面での困難性の関連を検討する場面	80%
障害者側と事業主側の一体的な支援の場面	60%
障害のある人の職業能力や課題を関係者に説明する場面	100%
地域の関係者に、雇用支援上の協力を要請する場面	80%
本人の興味やニーズを活かした就労支援を行う場面	80%
就労が非常に困難な障害者の就労支援策を検討する場面	80%
障害のある人にはあった仕事内容を検討(再設計等)する場面	80%
企業側に環境整備を交渉するための資料を準備する場面	80%
就職後の様々な職業場面での問題に対応する場面	80%

## 2 養護学校と、ジョブコーチ支援に取り組む福祉施設での試用例

関東の都市圏の養護学校と、ジョブコーチ支援を含む一般雇用支援に先進的に取り組んできた福祉施設の担当者からも同様に、UWDB の開発最終版について、今後の活用を前提としての意見や要望を聴いた。なお、以下は平成 16 年 12 月、当総合センターで開催した研究発表会におけるシンポジウムでの発言から抜粋したものである。

### （1）養護学校

この養護学校からは、毎年、卒業生の 30%近くが就職している。就職先は大企業中心であり、特にサービス職種が中心となっていた。学校の一教員の立場としては、外部との情報の共有化の必要性は感じているものの、実際の個別指導計画等の作成の段階では外部への情報提供を意識するまでには至っておらず、そのまま活用することが困難であるという問題意識があった。また、職場実習において生徒の職業能力を担当者が評価する際に、担当者の主観が影響し、客観的なアセスメントに基づいていないとの問題意識もあった。

「障害者雇用支援総合データベース」活用の意義については、①進路指導における仕事調べと、個別課題の把握を生徒本人と教員が行えること、②職場実習における環境設定や教員と企業が障害に関する情報を把握・認識するのに活用できること、があげられた。さらに、今後の課題や要望としては、新たな職域拡大につながる機能や、最新で具体的な支援方法の更新についてあげられた。

#### ア 進路指導での活用

「職務要件検索」機能を活用すれば、「ジョブ・ジョブ・ワールド」や「O\*NET」によって、まず様々な職業が理解・把握できる。さらに、職種や働き方に応じた、個別の職業アセスメントとしての活用にも使える。これは、生徒本人だけでなく、あまり就労支援の経験のない教員にとっても有用な情報である。

#### イ 職場実習での活用

職場実習において、「環境整備チェックリスト」を活用することによって、企業側と教

員の両方で、環境設定の仕方を考えやすくなる。特に、職場実習に付き添う教員の就労支援の経験が少ない場合もあり活用できる。さらに、就労条件を、一般的就労条件にした場合と、短時間雇用にした場合とで、チェック項目が変わるなど細かな設定にも注目したい。

また、障害や疾患についての情報も、職場実習において、企業側、教員側に重要な情報となる。

#### ウ 新たな職域の開発

本データベースは、過去の事例を登録したものではなく、それに拘らず、多様な職種について検討できるという特徴があるが、試用者にはこれを正しく認識してもらうに至らず、「新たな雇用の創出に可能性がある」機能の要望があらためてあった。

#### エ わかりやすい最新情報の必要性

多様な支援方法や支援機関について、具体的な最新の情報をより一層充実してほしいとの要望があった。

### (2) ジョブコーチ支援を行う福祉施設

この福祉施設は、年間10名以上の就職者を出している知的障害者通所授産施設と、300名をこす就労者をサポートしている地域就労援助センターを3ヶ所運営している。ここでの就労支援担当者からの UWDB の活用可能性としては、①採用時での企業対応、②トラブル発生時等の企業対応、また、課題としては、①具体的な支援方法に関する情報の必要性や、②利用者からの情報フィードバックによる情報の更新の提案があった。

#### ア 採用時の企業対応

採用時に職業的課題を説明できることにより、リスクマネジメントに活用でき、また、対応の提案についても標準的な環境整備を示すことにより、企業側の標準的な対応について引き出しやすくなる可能性がある。

#### イ トラブル発生時等の対応

雇用されている人については、トラブル発生時に対応方法を調べるために、支援方法の検索は役に立つ。また、離職の時期について、問題事項を巡って本人と企業の納得につながる簡易アセスメントとしても活用可能性がある。

#### ウ 具体的な支援方法の情報

具体的に理解しやすいイメージを含めた情報、実際の職場改善例の情報も含めて欲しいという要望があった。

#### エ 情報の更新への利用者フィードバックの活用

利用者が新たに職場改善の提案を行う場合もあるので、それを含めてデータベースが常に更新されるとよいという提案があった。

### 3 今後の応用可能性

また、我々自身、多様な障害のある人の今後の社会的支援のためには、「障害者雇用支援総合データベース」を活用することが不可欠であると考えている。これまでにも、何度か述べたように、難病、精神障害、高次脳機能障害など、疾患・障害管理上欠かせない医療・保健分野による継続的なケアを始め、そのための環境面での種々の配慮が必要となる人たちへの個別的な支援体制の構築には、「障害者雇用支援総合データベース」の活用が要となるのである。

例えば、筋萎縮性側索硬化症（ALS）をもつ人のことを考えると、わが国では寝たきり生活になることが多いが、一方でホーキング博士のように極めて重度な状態であるにも関わらず活発に仕事をしている例もある（Hawking）。ホーキング博士の例は例外中の例外であって、普通の難病支援のモデルとしては考慮されないとというのがこれまでであった。

しかし、「障害者雇用支援総合データベース」でホーキング博士の例について検索して検証すると、別にこれは特殊な例ではない、という可能性が示唆されるのである（ホーキング博士の事例についての「個別就労支援 総合計画書」を示す）。つまり、全身の筋萎縮で、人工呼吸器が必要な状態であり、気管切開、さらに見えない部分での心臓機能障害などの重篤な機能障害にも関わらず、ホーキング博士は執筆、講演、海外出張も可能となっている。これは、電動車いす、可動の人工呼吸器、コンピューター入力支援機器、音声変換器、支援者といった目に見える支援だけでなく、大学の最新支援機器の研究者などの関与を考えれば不思議なことでも特殊なことでもない。障害以外の個人因子についていえば、ホーキング博士が物理学者としての資質を備えていることは言うまでもない。

ホーキング博士は世界一流の仕事をしているから特別と考えられるかもしれないが、ポイントは、このような支援方法の提案は、誰に対しても、どのような仕事に対しても可能だということである。このような個別化された支援は、重度障害のある人の支援に対して可能性があると考えられ、これを経済的な面も含めて支えることも含め、今後の研究課題として残されているものである。

## 個別就労支援 総合計画書

計画作成日 年 月 日

利用者名	(男・女)	年	月	日生(歳)
法定代理人	( )	初回受付	年	月 日
健康状態(原因疾患、障害種類・程度等)				
特記事項(受障時期、コントロール状態、生活自立度等)				
筋萎縮性側索硬化症→重症(人工呼吸器使用)				
参加目標				
特記事項(希望内容、進路指導、求職の状況等)				
就労条件:短時間勤務 個別参加目標:わが国の標準的な環境整備をもとめる 職種:物理学者				
本人の興味、適正、アピール点等(個人因子)				
職業的興味 適性 本人のアピール点				

支援内容(環境)	対象となる課題	担当者	支援スケジュール
ラッシュ時を避けた通勤時間の設定	「心臓機能」による「一般的な課題と要求」		
危険作業の解消(安全装置など)	「心臓機能」による「危機への対処」		
人権について社内で啓発する	「構音機能」による「ほかの人と会話すること」		
生産性や社への貢献を重視した職務配置	「運動に関連した構造」による「物の運搬・移動・操作(詳細不明)」		
階段を使わなくても良いようにする	「呼吸器機能」による「歩行と移動(詳細不明)」		

支援内容(個人)	対象となる課題	担当者	支援スケジュール
医療専門家との連携	「心臓機能」による「ストレスへの対処」		
音声合成装置	「音声と発話の機能」による「話すこと」		
原稿ホルダ	「上肢」による「細かな手の使用」		
リモートコントロール装置	「上肢」による「上腕を使うこと」		
操作スティック	「筋力の機能」による「細かな手の使用」		

(既に整備済みの環境については、別紙1「整備済みの環境条件」を参照して下さい。)

(対象となる障害の課題については、別紙2「職業的課題チェックリスト」を参照して下さい。)

(支援内容の詳細については、別紙3「支援内容の説明」を参照して下さい。)

支援者リスト				
	氏名	所属	役職・資格	連絡先
主担当				

## 整備済みの環境条件

環境整備確認日 年 月 日

## 1 職場環境整備

- (1) 事業所名、職場名 : 物理学者  
(2) 事業所の方針 : わが国の標準的な環境整備をもとめる

## 2 整備済みの地域環境整備

整備済み	項目
レ	職場環境・適応状態の継続的向上プログラム
レ	知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員の態度
レ	事業所の近くに住居を決める
レ	時差出勤
レ	勤務時間変更サービス
レ	機械に安全装置
レ	外部機関の相談対応者

## 職業的課題チェックリスト

障害にかかわらない要件

〔職種〕物理学者

〔説明〕

物理学的現象を様々な段階から調査し、観察・実験に基いて理論・法則を確立し、かかる法則・理論を産業やその他の分野に応用するための方法を考案する。

〔この仕事の難しさの目安〕

最低で、大学卒、多くの場合、大学院を卒業して、修士や博士の学位が必要な仕事です。仕事ができるようになるためには、その仕事に関連したスキル、知識、経験が非常に必要で、多くは5年以上の研修訓練期間が必要です。

〔この仕事の興味分野〕	〔この仕事に必要な知識〕
	物理 数学 英語（自国語） 教育・訓練の知識 工学と技術 通信とメディア デザイン生産 と加工

### 1 職場での障害への対処の優先事項

ここでチェックされている項目は、あなたにとっての職業的な障害対策の優先事項です。職場や地域の環境整備や職業リハビリテーションによって、これらの問題を解決していくことを、個別就労支援の目標とします。

職業的課題チェックリスト	
実際の問題状況	
問題あり	職業的課題
	<b>単一課題の遂行</b> 1つの課題を遂行するために時間、空間材料を調整し、ベースを決定し、実行、完成、維持すること。
	<b>グループで作業すること</b> 単純もしくは複雑な単一の課題を、その一部または全段階を他者と協力しながら行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整すること。
	<b>複数課題の遂行</b> 順次あるいは同時にうべき、多数の統合され複雑な課題があり、それを構成するさまざまな要素としての、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。
	<b>グループでいくつも並行してある作業を行う</b> いくつかの課題を同時または順次に、その一部または全段階を他者と協力しながら行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整し、また複数の課題を管理し、遂行すること。
レ	<b>ストレスへの対処</b> 課題遂行に関連したプレッシャー、非常事態、ストレスにうまく対処する
レ	<b>危機への対処</b> 急激に起った危険や困難にさらされた状況や時間においてうまく対処する
	<b>超高温／超低温下での作業</b> きわめて高い（華氏90度超、摂氏約38度以上）、またはきわめて低い（華氏32度未満、摂氏約0度未満）温度下で作業に従事すること
レ	<b>話すこと</b> 文字通りの意味や言外の意味をもつ、話し言葉（音声言語）によるメッセージとして、語、句、または文章を生み出すこと。例えば、話し言葉として事実を表現したり、物語を話すこと。

職業的課題チェックリスト	
実際の問題状況	職業的課題
問題あり	職業的課題
レ ほかの人と会話すること 話し言葉(音声言語)、書き言葉、記号、その他の方法の言語を用いて行われる、考えやアイデアの交換を開始し、持続し、終結すること。公的場面や日常生活の場面で、知り合いまたはよく知らない人と、1人または複数の人とで行われる。	
レ ディスカッション 問題を吟味し、賛成・反対などの意見を出して議論を行う	
	しゃがむこと 床の高さのトイレを使うために必要な姿勢をとる時のように、膝を折って臀部を座面や踵につけて座ったりしゃがんだりした姿勢をとることや、その姿勢をやめること。あるいはその姿勢から他の姿勢に変わること(例えば立ち上がることなど)。
	ひざまずくこと (教会で)祈る時のように、脚を曲げて膝で身体を支えるような姿勢になることや、その姿勢をやめること。あるいはその姿勢から立位などの他の姿勢に変わること。
	立つこと 立位になったり、立位をやめること。また、立った姿勢から臥位や座位などの他の姿勢に変わること。
	身体を曲げる(かがみこむなど) お辞儀をしたり、下の物を取るように、体幹部で背を下方または側方に傾けること。
	座位姿勢の保持 机やテーブルに座っている時のように、必要に応じて一定の時間、椅子または床に座位を保つこと。
	立ち姿勢の保持 列に並んで立っている時のように、必要に応じて一定の時間、立位を保つこと。
	運搬すること カップを持ち上げたり、子どもをある部屋から別の部屋へ運ぶ時のように、物を持ち上げること、ある場所から別の場所へと物を持っていくこと。
レ 上腕を使うこと	
	手と腕で物を動かしたり操作したりする ドアの把手を回したり、物を投げたりつかまえる時のように、手と腕を使って、物を動かしたり操作するのに必要な協調性のある行為を遂行すること。
レ 歩行と移動(詳細不明)	
	交通機関や手段を利用しての移動
レ 乗客として交通機関を利用する 移動のために、乗客として交通機関や手段を用いること。例えば、自動車、バス、人力車、ミニバス、動物、動物の力による乗り物、私的なあるいは公共のタクシー、バス、電車、路面電車、地下鉄、船や飛行機に乗ること。	
	身だしなみや健康管理などのセルフケア 健康管理や身辺管理(清潔、衣食、排泄など)
	食べること 提供された食べ物を手際よく口に運び、文化的に許容される方法で食べること。例えば、食べ物を細かく切る、碎く、瓶や缶を開ける、はしやフォークなどを使う、食事をとる、会食をする、正餐をとること。
	基本的な対人関係 状況に見合った社会的に適切な方法で、人々と対人関係をもつこと。例えば、適切な思いやりや敬意を示すこと。他人の気持ちに適切に対応すること。
	その他の特定の、複雑な対人関係
	複雑な対人関係(詳細不明)
	特別な対人関係(詳細不明)

## 支援内容の設定

[支援内容] ラッシュ時を避けた通勤時間の設定

[具体的な内容] 通勤時交通機関での混雑を回避し疲労を防止するため、通勤時間を一般より配慮します。

[疾患・障害種類]

[機能障害] 心臓機能

[活動・参加上の問題] 一般的な課題と要求

[情報源] 2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果

[支援効果についてのデータ]

支援を行わない場合に比べて、「心臓機能」による「一般的な課題と要求」の問題が20分の1（2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果より）

[特記事項]

[支援内容] 危険作業の解消（安全装置など）

[具体的な内容] この場合の環境整備の例には、銳利物の使用を避けること、防護服・防護装置の手配、機器に危険防止装置や安全装置を備えること、自宅勤務を認めることなどがあります。（下記のJANのホームページを参照してください）

[疾患・障害種類]

[機能障害] 心臓機能

[活動・参加上の問題] 危機への対処

[情報源] 米国労働省 Job Accommodation Network (JAN)

[http://worknet.jeed.or.jp/soar-jp/www.jan.wvu.edu/soar/motor/4\\_safely.html](http://worknet.jeed.or.jp/soar-jp/www.jan.wvu.edu/soar/motor/4_safely.html)

[支援効果についてのデータ]

[特記事項]

[支援内容] 人権について社内で啓発する

[具体的な内容]

[疾患・障害種類]

[機能障害] 構音機能

[活動・参加上の問題] ほかの人と会話すること

[情報源] 2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果

[支援効果についてのデータ]

支援を行わない場合に比べて、「構音機能」による「ほかの人と会話すること」の問題が3.1分の1（2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果より）

[特記事項]

[支援内容] 生産性や社への貢献を重視した職務配置

[具体的な内容] 消去法で新しい作業に就かせるのではなく、仕事の内容については適材適所に配置  
本人の能力、知識が発揮でき、仕事全体に寄与できる環境、庶務を厳選して配置

[疾患・障害種類]

[機能障害] 運動に関連した構造

[活動・参加上の問題] 物の運搬・移動・操作（詳細不明）

[情報源] 2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果

[支援効果についてのデータ]

支援を行わない場合に比べて、「運動に関連した構造」による「物の運搬・移動・操作（詳細不明）」の問題が7.7分の1（2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果より）

[特記事項]

[支援内容] 階段を使わなくても良いようにする

[具体的な内容] エレベーターやエスカレーター、リフトを使えるようにするか、階の移動がないようにする。

[疾患・障害種類]

[機能障害] 呼吸器機能

[活動・参加上の問題] 歩行と移動（詳細不明）

[情報源] 2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果

[支援効果についてのデータ]

支援を行わない場合に比べて、「呼吸器機能」による「歩行と移動（詳細不明）」の問題が5.3分の1（2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果より）

[特記事項]

[支援内容] 自宅勤務や休暇、柔軟なスケジュールを認める

[具体的な内容] 機能障害のため通常水準での勤務が困難なことがあります。この場合の環境整備の例には、柔軟なスケジュールや休暇取得、自宅勤務を認めることなどがあります。（下記のJANのホームページを参照してください）

[疾患・障害種類]

[機能障害] 神経筋骨格と運動に関連する機能

[活動・参加上の問題] 乗客として交通機関を利用する

[情報源] 米国労働省 Job Accommodation Network (JAN)

[http://worknet.jeet.or.jp/soar-jp/www.jan.wvu.edu/soar/motor/4\\_attend.html](http://worknet.jeet.or.jp/soar-jp/www.jan.wvu.edu/soar/motor/4_attend.html)

[支援効果についてのデータ]

支援を行わない場合に比べて、「神経筋骨格と運動に関連する機能」による「乗客として交通機関を利用する」の問題が13.1分の1（米国労働省 Job Accommodation Network (JAN)より）

[特記事項]

[支援内容] 送迎バス、タクシー送迎

[具体的な内容] 様々な場所での移動や、交通機関を使用しての移動に困難がある場合、送迎バスやタクシー送迎などの手段が考えられます。これによって出勤や通勤のトラブルを避けることが出来ます。

[疾患・障害種類]

[機能障害] 神経筋骨格と運動に関連する機能

[活動・参加上の問題] 運動・移動

[情報源] 2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果

[支援効果についてのデータ]

支援を行わない場合に比べて、「神経筋骨格と運動に関連する機能」による「運動・移動」の問題が20分の1（2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果より）

[特記事項]

[支援内容] 交通支援、通勤支援の介助者

[具体的な内容] 公共交通機関でも完全なバリアフリー環境は得られておらず、また混雑などによって移動はさらに困難になると考えられます。専任の通勤介助者を配置することで通勤に際しての困難やトラブルを避けることが出来ます。

[疾患・障害種類]

[機能障害] 運動に関連した構造

[活動・参加上の問題] 交通機関や手段を利用しての移動（詳細不明）

[情報源] 2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果

[支援効果についてのデータ]

支援を行わない場合に比べて、「運動に関連した構造」による「交通機関や手段を利用しての移動（詳細不明）」の問題が2.1分の1（2000年障害者雇用事業所全国調査分析結果より）

[特記事項]

[支援内容] こまめな清掃などの配慮ポイントの啓蒙

[具体的な内容] （事例報告）

外見ではわからないH. Hさんの障害の内容と職場内での禁煙の徹底やチリ・ホコリを出さないためのこまめな清掃など配慮すべきポイントを同じフロアで働く社員に向けてレポート、総務全員で受け入れ態勢を整えていった。

[疾患・障害種類]

[機能障害] 呼吸器機能

[活動・参加上の問題] 仕事の継続

[情報源] 日本障害者雇用促進協会：障害者雇用マニュアル No.83「内部障害者のための職場環境」、1996.

[www.vcom.or.jp/project/cwf/cwf-info/knowhow/shitachic1.htm](http://www.vcom.or.jp/project/cwf/cwf-info/knowhow/shitachic1.htm)

[支援効果についてのデータ]

[特記事項]

[支援内容] 筋萎縮性側索硬化症(ALS)/ルー・ゲーリック病についての一般的情報

[具体的な内容] 筋萎縮性側索硬化症（ALS）/ルー・ゲーリック病についての環境整備は個別対応を基本に検討します。よくある環境整備の場面に対応するため、機能障害のリスト（完全なリストではありません）を用意しています。（下記のJANのホームページを参照してください）

[疾患・障害種類]

[活動・参加上の問題] 仕事の獲得・維持・終了

[情報源] 米国労働省 Job Accommodation Network (JAN)

<http://worknet.jeet.or.jp/soar-jp/www.jan.wvu.edu/soar/other/als.html>

[支援効果についてのデータ]

[特記事項]

[支援内容] 医療専門家との連携

[具体的な内容] 勤務中に、医師などに支援を求める電話をすることを認める、カウンセリングや被雇用者支援計画に関する情報を提供する、といった環境整備が考えられます。

（下記のJANのホームページを参照してください）

[疾患・障害種類]

[機能障害] 心臓機能

[活動・参加上の問題] ストレスへの対処

[情報源] 米国労働省 Job Accommodation Network (JAN)

[www.jan.wvu.edumediaHeart.html#www.jan.wvu.edumediaHeart.html](http://www.jan.wvu.edumediaHeart.html#www.jan.wvu.edumediaHeart.html)

[支援効果についてのデータ]

[特記事項]

[支援内容] 音声合成装置

[具体的な内容] 人工的に合成した音声を出力する装置で、規則合成方式の音声合成装置（テキスト情報を音声出力するもの）、録音編集方式の音声合成装置、周波数帯域変換装置（聴覚障害者のために音声を聞きやすい周波数帯域に変換するもの）などを含む。人工喉頭は214212を参照。（この福祉用具やその説明について、さらに詳しい情報が必要な場合は下記リンクより検索してください。）

[疾患・障害種類]

[機能障害] 音声と発話の機能

[活動・参加上の問題] 話すこと

[情報源] CCTA95

<http://www.techno-aids.or.jp/system/index.shtml>

[支援効果についてのデータ]

[特記事項]

[支援内容] 原稿ホルダ

[具体的な内容] 肢体不自由者が、入力原稿を見ながらコンピュータなどへ文字を入力するときに原稿をおく台。（この福祉用具やその説明について、さらに詳しい情報が必要な場合は下記リンクより検索してください。）

[疾患・障害種類]

[機能障害] 上肢

[活動・参加上の問題] 細かな手の使用

[情報源] CCTA95

<http://www.techno-aids.or.jp/system/index.shtml>

[支援効果についてのデータ]

[特記事項]

[支援内容] リモートコントロール装置

[具体的な内容] スキャナーや光・言葉・音による操作システムを含む。（この福祉用具やその説明について、さらに詳しい情報が必要な場合は下記リンクより検索してください。）

[疾患・障害種類]

[機能障害] 上肢

[活動・参加上の問題] 上腕を使うこと

[情報源] CCTA95

<http://worknet.jeed.or.jp/iso9999/241203.html>

[支援効果についてのデータ]

[特記事項]

[支援内容] 操作スティック

[具体的な内容] 頭部や頸、口で操作するスティックを含む。（この福祉用具やその説明について、さらに詳しい情報が必要な場合は下記リンクより検索してください。）

[疾患・障害種類]

[機能障害] 筋力の機能

[活動・参加上の問題] 細かな手の使用

[情報源] CCTA95

<http://www.techno-aids.or.jp/system/index.shtml>

[支援効果についてのデータ]

[特記事項]

## 第2節 雇用と福祉の連携のために

ここで、第3章の最後に残しておいた問題にも触れておきたい。つまり、現在、実際に、どの程度支援方法や職業的目標の選択肢があり、就労可能性がどの程度制約される可能性があるのか否かについてである。我々は、それらの解決に向けた進展は、今後、各支援者が本データベースの活用を通じて、創造性を発揮することにかかっていると考えている。

本データベースには、多くの人々が様々な障害や疾患にかかわらず、職業生活を送ることができるようにという願いをこめて、種々の支援方法等に係る情報を豊富に蓄積した。我々の観点からすれば、「障害者雇用支援総合データベース」は障害のある人の就労可能性の判断において不可欠の情報を提供しており、ある人を「働けない」と判断する前に、本データベースを活用して、出切る限りの可能性を検討することが必要である。

これまでの雇用と福祉の連携は、障害のある人は働けないという前提での役割分担を中心であった。しかし、我々は、雇用と福祉の連携パターンとして、障害のある人の職業生活を含む生活全体を支える役割を期待している。また、そのために、福祉施設の就労支援サービスを、職業生活を支える社会資源として活用しやすくするための機能もツールの一部に組み込んだ。障害のある人の職業生活の支援ニーズを明確にすることにより、新しい雇用と福祉の連携のあり方を探るツールとしての活用も期待したい。

## 第3節 社会的支援ニーズの明確化

現時点では、ある職業的目標に対して、該当する効果的な支援方法や社会資源が見出せない場合も考えられる。その場合、その人については、別の職業的目標を設定することによって、就労可能性を検討することも可能である。また、その一方で、社会的支援の課題として、地域の社会資源整備の必要性や、研究開発ニーズを明確にすることによる調整・啓発機能が期待される。

### 1 社会資源整備の必要性

「障害者雇用支援総合データベース」はあくまでも、多様なニーズに対して、多様な支援を結びつける調整のためのツールである。しかし、地域によっては、そのような支援方法が全く提供されていない、利用できない、ということが現実に多くある。

この場合、「障害者雇用支援総合データベース」は別の意味での社会的な調整のツールとして役立ちうる。つまり、支援方法は存在するのに、当該地域に必要な支援サービスの提供がない場合には、その事実をその地域の政策担当者に提示すること等により、地域社会資源の整備を促進できると、我々は期待しているのである。

なお、β1版の「ユニバーサル・ワーク・データベース」には、社会資源として福祉施設しか登録していない。これは、研究計画当時には、活用の見込みのある就労支援を提供

しうる社会資源として福祉施設しか認識していなかったためである。しかし、現在は、医療機関なども就労支援の社会資源として活用する必要性が高まっており、その機も熟しつつある。今後の課題としたい。

## 2 研究開発ニーズの明確化

「障害者雇用支援総合データベース」を活用することによって、体系的に研究開発ニーズを明確化することにも資することができるだろう。つまり、これまででは、精神障害者への対策、発達障害者への対策等、対象者の診断名を中心として研究課題が上げられることが一般的であったが、支援方法が確立していない研究課題相互においては結果としてアプローチが重複している面も少なくないと思われる。

我々は既に多様な支援方法について研究段階にあるものを含め文献情報等を中心に支援データベースに登録した。しかし、特定の課題が予測されるにもかかわらず、それに対する支援方法が見当たらない、という場合を多く予想している。これらについては、本当にそのような問題があるのか、という確認とともに、早急に、支援方法について調査したり、必要に応じて新たな研究開発を行ったりする必要があるだろう。

### (1) 支援方法が見出されていない課題の予測

我々は、これまで本データベースに登録した全ての障害や疾患の種類や程度、また職種や働き方について総当たりで組み合わせるシミュレーションを行うことによって、職業上の活動制限が起こりうると予測され、しかも、それに対して支援方法が登録されていない、という項目を400件以上発見した。これらに対しては、その課題の確認、支援方法の再調査を踏まえ、今後の研究開発ニーズを明らかにすることにつなげていくことが必要であろう。

#### ア 登録データの妥当性の確認

シミュレーションによる課題予測においては、各疾患や障害種類の機能障害や、機能障害から活動制限が起こる関係性についてのデータを用いている。まず、最初には、このような関係性について再度チェックして、それが本当に起こりそうな問題かどうかを確認する必要がある。

#### イ 支援方法の追加調査

問題の妥当性が確認されたら、既存の資料を再調査するなどして、支援方法があるものについてはそれを登録することが必要である。

#### ウ 支援方法の研究開発

必要に応じてそのような問題が実際に職業上起こっているのか実態を調査したうえで、本当にそのような職業的課題があって、支援方法が確立されていない場合には研究開発の

ニーズとして、社会的課題として明確化する必要があるだろう。

## (2) 支援方法が見出されなかつた職業的な課題の例

精神障害や高次脳機能障害に関わる個別の精神機能の障害による課題には、支援方法が見出されなかつたものが多くある。それ以外にも、医療的な専門性を要する支援（貧血、運動耐容能等による問題への支援）、さらに、疾患の管理に伴う職業上の制限事項については、もとより医療的な観点との調整が必要である。さらに、吐き気、めまい、痛み（頭痛、腹痛、四肢の痛み等）によって、職業生活は全般的に大きく影響を受けるが、これらに対する支援方法は、薬物療法を含め、今後の検討が必要である（表）。

なお、これらはあくまでも、疾患や機能障害と活動制限の個々の問題の相互関係について支援方法が見出されないことを示すものである。特定の人について言えば、職業的目標の個別性を考慮すれば、このような「支援方法が見出されない課題」があつても、別の職種や働き方を検討したり、職務再設計をしたりといった方法によって、そのような課題自体をなくす方法があることについては、第3章で述べたとおりである。

表. 機能障害による活動制限について、支援方法が見出されなかつた項目の例

機能障害	支援方法が見出されない職業的な課題
見当識機能	問題や状況の解決法を見出すこと 判断、選択、決定を行う 一般的な課題と要求 会話や議論 対人関係
精神的安定性	会話や議論 基本的な対人関係 対人関係にかかわる行為・行動 よく知らない人の関係
衝動の制御	手と手指で精密な作業を行う 乗り物、機械装置、機器の運転
注意機能	対人関係
短期記憶	電話やファックスの使用
精神運動機能	単一課題の遂行 複数課題の遂行 危機への対処
情動機能	会話や議論 よく知らない人の関係
幻聴	話し言葉の理解 会話や議論 基本的な対人関係 対人関係にかかわる行為・行動 よく知らない人の関係 グループやチームでの仕事(単純課題) グループやチームでの仕事(複数課題) 会話や議論 興奮を抑えて冷静に対人に対する 対人関係にかかわる行為・行動 よく知らない人の関係
思考機能	思考

思考のコントロール	会話や議論 対人関係 よく知らない人との関係
計算能力	運転と制御のスキル メンテナンスや故障対応のスキルを要する仕事の遂行 責任への対処
複雑な運動を順序立てて行う精神機能	技能の習得 スキルを要する仕事の遂行 反復動作 運動・移動(詳細不明)
観念失行	単一課題の遂行 複数課題の遂行 手と手指で精密な作業を行う 移動(歩き以外) 乗り物、機械装置、機器の運転
左右失認	単一課題の遂行 複数課題の遂行 責任への対処 危機への対処 物体の取り扱いと移動 反復動作 はしご、足場、柱などへの登り 一般的な身体活動を行うこと 外部顧客への対応
バランスに関する前庭機能	座り 立ち 物体の取り扱いと移動 歩きまたは走り ひざまずき、うずくまり、または這い はしご、足場、柱などへの登り
固有受容覚	危機への対処 物体の取り扱いと移動 手と腕の安定
触覚	手と手指で精密な作業を行う
温度覚	超高温／超低温下での作業
侵害刺激に対する感受性	細かな手の使用 手と腕で物を動かしたり操作したりする
音声と発話の機能	基本的な対人関係 不愉快／怒った人への対応 暴力的な人への対応 複雑な対人関係(詳細不明) よく知らない人との関係 上司や同僚などの職場スタッフとの適切な人間関係
心臓機能	基本的な姿勢の変化(詳細不明) 歩行と移動(詳細不明)
血管の機能	身体の曲げまたはひねり
血圧の維持	危機への対処 立ち姿勢や座位姿勢など同じ姿勢のままでいること 歩きまたは走り
貧血	日課の遂行 危機への対処 身体の曲げまたはひねり 立ち姿勢や座位姿勢など同じ姿勢のままでいること 持ち上げて運ぶこと(詳細不明) 歩行(詳細不明) はしご、足場、柱などへの登り

血液凝固機能	危機への対処 持ち上げて運ぶこと(詳細不明) ひざまづき、うずくまり、または這い はしご、足場、柱などへの登り
非特異的免疫反応	ストレスへの対処 危機への対処 ストレス、悩み、責任への対処 危機への対処
呼吸器機能	危機への対処 超高温／超低温下での作業 身体の曲げまたはひねり 移動(詳細不明) 交通機関や手段を利用しての移動(詳細不明)
運動耐容能	危機への対処 超高温／超低温下での作業 基本的な姿勢の変化(詳細不明) 歩行(詳細不明) 移動(歩き以外) 持ち上げて運ぶこと(詳細不明)
易疲労性	立ち姿勢や座位姿勢など同じ姿勢のままでいること
炭水化物代謝	超低温下での作業
水分・ミネラル・電解質バランスの機能	超高温下での作業 歩きまたは走り
水分バランス	流れ作業のペースに合わせる
水分貯留	座位姿勢の保持
体温調節能力	大気条件下での作業
発熱	日課の遂行
皮膚の保護機能	危機への対処

表. 疾患による直接の活動制限について、支援方法が見出されなかつた項目の例

疾患	支援方法が見出されない職業的な課題
溶血性貧血	危機への対処
再生不良性貧血	疾病/伝染病への感染の危険性
原発性免疫不全症	ストレスへの対処 ストレス、悩み、責任への対処 放射線
糖尿病	疾病/伝染病への感染の危険性
ポルフィリン症	明るすぎるかまたは不十分な照明下での作業 天候条件にさらされる作業
広汎性発達障害	ストレスへの対処 話し言葉の理解
ハンチントン舞蹈病	危機への対処
バージャー病(ビュルガー病)	超低温下での作業
膿疱性乾癬	保護服または安全服を必要とする課題遂行
大動脈炎症候群(高安病)	明るすぎるかまたは不十分な照明下での作業
膠原病	危機への対処
広範脊柱管狭窄症	暴力的な人への対応 疾病/伝染病への感染の危険性 身体の曲げまたはひねり

## 文献

Hawking S: Disability: my experience with ALS, <http://www.hawking.org.uk/disable/dindex.htm>